

平成23年度第1回大分県食育推進会議

日 時：平成23年6月21日（火）15：15～17：15
場 所：大分県建設会館 5階 大ホール

～次 第～

- 1 大分県食の安全確保推進本部食育専門部会長
生活環境部審議監 あいさつ
- 2 議 事
 - (1) 平成22年度食育関連事業実施状況について
 - (2) 第2期大分県食育推進計画について
 - (3) 平成23年度食育関連事業について
 - (4) 食育推進会議の2年間のまとめについて



《主な意見》

第2期大分県食育推進計画他全体について

- ・計画の目標値25項目を達成した場合、食育はトップになるのか。
- ・学校で講師を招いて食育をしたいという電話がじゃんじゃんかかるような取り組みにするには、学校の管理職が食育を原点としてとらえることが必要ではないか。管理職の研修会の中で食育について伝えていくことで広がるのではないか。
- ・人材バンクの登録者数に加え、食推協が伝統食を伝えているので、実施件数をくわえてはどうか。
- ・目標の6つの力が基本と思われるが、数値化は、難しいと思われる。数値化で表すととっつきにくく感じる。
- ・数値は、25項目に増えたが、中身がみえていない。例えば、肥満者の対応について、減らすことを伝えても実行できないが、よくかむことを伝えるとその方が人は聞いてくれる。地元の食材についての食の安全については、言われるが、食べるうえで重要となる口の健康が欠けている。委員として歯科医師を入れるべきだと思う。

2年間を振り返って

佐々木 照子 委員

- ・大分県の食育に係る実態を様々な分野の方々との会議や視察を通して知ることができた。
- ・視察を通して、佐伯の渡町台小学校の取り組みから、月1回の地産地承（消）給食から地場産物への感謝や自分が住む地域を誇りに思う教育の流れを感じた。
- ・本年度は、大分県の基本方針を生かして食育で育てたい6つの力を基盤に幼稚園の食育を実践中。

吉川 喜代美 委員

- ・一年間いろいろ勉強させていただいたが、食育には家庭の力が大事と考えたときにバンクのことや概要版など親はどれくらい目や耳にする機会があるか？
- ・公民館やホームページに掲載されていても見る機会はあまりない。もっと広く周知する機会を増やして欲しい。

後藤 慶子 委員

- ・この会議に参加したおかげで、所属する会においても食育に関連する事業を行う事ができた。
- ・第2期計画の6つの力に全てが集約されていると思う。まず家族の中で6つの力を学び、実践していくべき。
学校や地域など集団でなければ、できないことを学び、農の大切さを学ばなければ、農が減び、国が減びと思う。
自給率が1%でもあがる様な食育活動につながればと思う。

牧野 由子 委員

- ・食育推進委員として、食育の重要性を認識し、県としてしっかり取り組んでいる姿勢を感じた。また、各委員の食育に対する熱い思いを知ることができた。この会で学んだことを受け止め、食の大切さ、食べることへの感謝の心を育てて行きたいと思う。
- ・第2期計画を県民に広く伝えていくことが、最重要だが、家庭や親子の絆など課題は山積しているが、根気強く伝えていく事だと思

岩堀 孝 委員

- ・一年間委員として参加。佐伯の視察は、自分が農協なので、漁協の活動は、参考になった。食育は、学校に家庭の代理を求めているのが現状のように思う。

安東 久美子 委員

- ・二年間の任期の中で、豊後合鴨など知らなかったことを知ることができた。
食育は必要だが、どんな力をつけていくのか。今の子どもの親はあまり料理を作らない。その子どももその力は育たないまま親になり、子どもに伝わっていかないことがくやしい。広がる方策を考えて欲しい。

田代 幹雄 委員

- ・食育は難しい。食べるのは本能。それを他人が口を挟むのかという気がする。親が子の食を考えてやる必要がある。行政は、母のできない歯科健診など環境整備を行う。どんなものを食べるかは親が考えることで、あまりしすぎると逆にしなくなる。おせっかいの仕方、工夫がいる。

首藤 妙子 委員

- ・豊後高田市、佐伯市の現地を見学して見て、現状がわかり、大変良かった。
- ・所属する会の活動として、食文化、郷土料理の継承、発展を今年度も各小学校、郷土料理クラブ等で地元の食材を使用し、佐伯のごまだしうどん、かんくろだんご、やせうま、だんご汁等調理する計画をしている。

粟生 美幸 委員

・大分県が県をあげて食育に力を入れている事がよくわかった。
・ただ、一生懸命されていることが、県民までまだまだ伝わっていないと思う。まだまだ縦割りの事業のように思う。縦割りの垣根を壊し、横の連携を深めるともっと成果があがるのではないかと思う。
主要指標整理票が過去のデータ、考え方がはっきりわかりやすい。数値だけでなく内容も質が下がらないように推進していただきたい。

荷宮 英二 委員

・宇佐市でも取り組んでいるが、学校出も月に1回学校給食に地元食材を取り入れているが、給食費の問題であまり多く実施できていない。
・取り組みとして、グリーンツーリズムで中学生が沢山くるが、その子どもが大きくなった時につながっていくのではと思う。
・今年、東北にぶどうを送る際、ぶどうの袋にメッセージを書くことができずなができた。単なる食べ物としてでなく、きずなが大切だと思う。数値だけで取り組むものではない。

佐保 京子 委員

・食育推進委員として、いろいろな分野の方の意見を聞いたり、県内で活躍している方をしることができた。
・視察研修では、佐伯市の渡町台小学校の食育授業については、地域ぐるみで生産者と一緒になった熱心な取り組みが印象的だった。佐伯市は食からまちづくりをしており、研修のおかげで担当者と知り合いになり、他県での研修会の情報も得る交流会が可能となった。
・6つの力をつけるためには、保育園、幼稚園、小学校で野菜づくりなどの農園を地域の協力を得ながら体験し、とれたての野菜を食べることで本物の味を覚えさせることが大事だと思う。

阿部 愛子 委員

・同じ佐伯市に住んでいるが、市内渡町台小学校の取り組みの方向性には、感心した。作り、育てることを目に焼きつける授業にびっくりした。併せて協力者がいるということにもおどろきだった。生徒が残さず食べ、笑顔が印象的だった。継続してほしい。

高田 陽平 委員

・後半は、仕事やイベントが重なり、あまり出席できなかったが、もう少し、観光や地域おこし等につなげられたらと思う。

・各課様々な仕事をしているが、もう少し全体として行う事業があった方が、よいのではないかと思う。(特に最重要な事業を1つだけ決めて、それに関しては、1年間全課で取り組むなど)

金丸 佐佑子 委員

・第2期大分県食育推進計画に係わることができ、大変勉強になった。

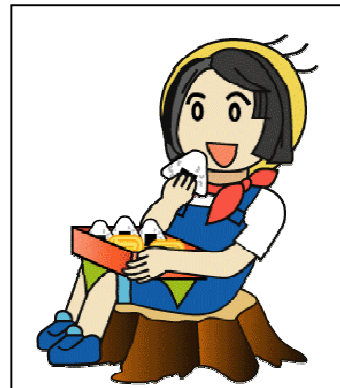
また、自分にとって食育が生き甲斐であることを再認識できた。

・今後、中・高・大学との係わりが少なく、学校や個人の努力におまかせのように感じるので、啓発する場づくりや人材育成が大切だと思う。教育庁を通して、学校管理職の食育啓発をお願いしたい。

・企業との連携を検討いただきたい。

平川 史子 委員

・大分の食育の意識の高さをひしひしと感じる。広く県民に広げていくことが大切。今回の計画で大学が入った。これを受けて別府大学では、学内男子学生を対象とした朝ご飯コンテストを実施する。食を通じて感謝する心や豊かな地域づくりをこれを縁に一緒に進めて行きたい。



*内容は、要約しています。